

東京都社会保険労務士会 会報

千代田・中央支部

事務局 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-13-1 旺巧ビル
柏木労務管理事務所内 ☎03 (3295) 4651 発行人 柏木弘文



гент (ベルギーにて)

(撮影：牧野武夫会員)

講演

金融ビッグバンと 企業経営

講師：住友信託銀行 伊藤 洋一 氏

日 時：平成10年6月10日(水)

場 所：東京都社会保険労務士会館



今、日本で進められている金融ビッグバンについて、なぜそれが
必要なのか、そして企業はどう対応していくべきなのか、住友信託銀
行の伊藤洋一氏をお招きし、講演をしていただきました。

世界経済の大きな変化

世界経済は非常に速く変わっています。想像し
なかったようなことが起こります。ですから、そ
の変化に対して柔軟に対応できなければ企業も個
人も時代から取り残されてしまいます。朝、新聞
を見たり、夕方テレビを見たりしたら、とんでも
ないことが起きているという環境がこれからも続
くことになると思います。

この変化はなぜ起きているか。一つは市場経済
の規模がものすごく大きくなったからです。ベル
リンの壁が落ちたとき、いままでと全く生活レ
ベルの違う人たちがドーッと市場経済の中に入っ
てきました。80年代後半までのわれわれの概念によ
る世界経済はOECDの経済でした。OECDと
いうのはだいたい10億人の経済です。そこに30億
とか40億という、全く賃金レベルの違う人たちが
経済の重要なプレーヤーとして入ってきた。世界
経済は10億人の市場経済から40億人の市場経済に
なったのです。そこには非常に大きな競争状況が
生じることになるわけです。

二つめはテクノロジーの変化です。インターネ
ットが1992年に初めて出てきました。いまは私の
ような安月給のサラリーマンでも買えるようなマ
シンで、世界中の情報が取れるような時代になっ

ています。国際的な情報が手に入れば、価格とい
うものはどんどん調整されていきます。情報はも
のの値段を動かすのです。また流通の面において
は、インターネット上に自社の製品を置いて、そ
れを顧客が選んで注文するというような、消費者
がメーカーと直接取引するようなシステムもでき
ています。このことによって、メーカーのコスト
はすごく安くなる。つまり消費者と生産者の間の
情報のやりとりを短縮して、無駄を削ぎ落として
いく経済になっているわけです。このように経済
の面で大きな変化をもたらしています。

なぜ金融ビッグバンを やるのか

80年代、日本のシステムはものすごくうまく機
能していました。ところが90年代、つまりベルリ
ンの壁が落ちて以降、テクノロジーがどんどん経
済のかたちを変えているいまの状況に日本のシス
テムが合わなくなってしまったのです。世界の経
済のなかで競争力を失ったら、富が生まれなくな
ります。富を生まなくなったら、国全体が貧しく
なる。だから日本の経済の競争力をつけていくし
かない。

日本の製造業は非常に強い競争力をもっていま
す。なぜそうなったかということ、世界のなかで市

場原理にもとづいた競争をしてきたからです。一方、金融がなぜこんなに弱くなったかという、国の保護のもとで競争してこなかったからです。いまのままではみんな共倒れになってしまう。そこで、痛みは伴うけれども、ビッグバンを進める。それしか日本が生き残る道はないという判断です。

いま日本で進められている金融ビッグバンは、日本の金融市場へ競争原理を導入することです。それによって世界において競争力を樹立しようとする。開放したから日興証券がトラベラーズと提携した。そこではじめて銀行も証券会社も世界と競争できるという考え方で進めるべきです。だから、金融ビッグバンの動きは止まることはありません。このまま進むはずですし、進まざるをえません。その結果、日本の金融機関の名前が変わったり、日本の金融機関が半分になったりしても、全くかまわないという考え方です。

去年の11月に山一証券、三洋証券が破綻し、一連のことが起きているわけですが、だから大変だ大変だと思うのではなくて、それは最初から予定されていたことだと考えるのが正しいと思います。

企業経営に求められるスピーディな意思決定と柔軟性

このように変化の激しい時代に、企業の経営は意思決定を遅らせたり先送りしていたらだめです。日本の経済がここまで悪化してきたのは、やらなければいけない必要なことを先伸ばししてきたからです。変化の時代にはスピーディな意思決定をしていかないといけない。その変化から日本が逃れられるかという、たぶん逃れられません。どうせ巻き込まれるのだったら、変化を味方につけておくほうがいい。とにかく変化が激しいのですから、その場その場できちんと意思決定しないといけない。日本はいまここがいちばん遅い。

そして重要なのは柔軟であること、フレキシブルであることです。明日何が起こるかわからないのですから、今日決めたことは明日変えるぐらいの気持ちでないと、変化に対応できません。製造業は見事にそれができています。できていないのは規制に守られていた業界です。世界のなかで競争できるようになるためには、いままでの慣行ではやっていけません。

アメリカのシステムが有利

1980年代はアメリカをドイツと日本は笑っていました。ところが、10年もたたないうちに、今度はアメリカが日本やドイツを笑う時代になったのです。アメリカの労働者はこの産業はだめだと思ったらとっとと替わる。これは軽々しく見えますが、いまの時代に非常にマッチしています。彼らのもっている社会システムは、いまという時代にぴったり合っています。アメリカは労働市場が非常に柔軟です。重要なことは、転職しても社会保険とか退職金の点で不利にならないシステムになっていることです。ところが日本の雇用システムは30年、40年勤めないと報われないシステムになっていて、なかなか転職することができない。そういうシステムを変えていかなければいけません。

二つめはアメリカはトップダウンです。日本では稟議です。みんなで稟議を重ねているうちに時間がたってしまう。そうすると、変化についていけなくなる。ところがアメリカのシステムはトップダウンで、トップが決めたことをワーッとやる。もちろんボトムアップでもいいのですが、変化に対して早く意思決定ができることが非常に重要です。

日本のシステムの悪いところは、きちんと決めすぎて柔軟性がないことです。また、80年代の成功体験を引きずっていて、まだこれでいけるんじゃないかと思っている。そのために意思決定が遅くなってしまうわけです。

しかし、日本は豊かです。豊かだということは向こうから寄ってくるということです。そして教育レベルが高い。さらに、これだけ危機だと言われながらもものすごい貿易黒字が出ています。この三つは日本の強みです。決して悲観することはないと思います。

日本的なものを守るためにも経済的に強くなければだめだというのが大蔵省の立場です。弱い国に文化は育ちません。強い国に文化が育つのです。製造業はいままで世界で一流でした。ただ、情報にしろ、金融にしろ、どんどん悪くなっています。ここを強くしなかったら、日本的なものも守れなくなる。私は日本を強くするためにビッグバンをやるのだと考えております。

開業(第一) 部会だより

開業(第一)部会長 橋本 敬司

第一部会の事業運営につきましては、日頃より第一部会会員の方々のみならず、第二部会の皆様にもご協力いただき大変ありがとうございます。

お陰様をもちまして、昨年度当初に予定した事業は、ほぼ達成することができました。本年度におきましても、昨年度同様、6回の例会及び研修会を予定しておりますので、今後も皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、例年実施しております行政協力等における相談内容や依頼事項の多様性は近年増大し、私たちに、専門的で幅広い知恵を求めています。このような社会の要請の変化に対し、私たちも大きく変わらなければなりません。しかし一人ひとりの人間の能力(体力?)には限界があり、それをカバーするのは、人と人とのつながり、つまりネットワークであると考えます。

第一部会は、そのネットワークの場となる可能

性のある組織であると思います。

部会員の大多数は、事業規模そのものからすれば中小零細事業主であるわけで、従来からも個人的なネットワークはそれなりに持ち得ていたと考えられます。しかし、相談や依頼の内容が複雑になればなるほど、より高度なネットワークが不可欠となります。当部会の会員数は、現在220名以上であります。このスケールメリットを活かしてこそ、これから私たちが歩む道が見えてくるのではないかと考えています。

研修会も当然充実させなければならないのですが、例会を報告・連絡だけでない、情報交換の場として、活用していただけるよう多くの方の参加をお願いしたいと思います。

最後に今後の日程をお知らせいたします。

9月2日(水) 2月3日(水)

10月7日(水) 3月3日(水)

11月11日(水)

いずれも午後より、会場は社労士会館を使用します。

勤務(第二) 部会だより

第二部会長 浅香 博胡

先般、全国会員2万5千名が注目していた第5次法改正が成立しました。内容は、試験事務の連合会への委託並びに審査請求などの書類作成と事務代理ができることです。又、東京会は5月28日の定時総会において役付役員選出方法が選挙制に改正されました。

社会保険労務士法制定30周年を迎えた本年、新たな第一歩を踏み出したと言えます。

私企業法人・公法人・開業事務所等勤務者として、超高齢化社会の到来する21世紀を目前にして、高年齢者の雇用確保、男女雇用機会均等の強化、労働基準法改正、介護保険の施行、退職給付に係わる負債の貸借対照表への計上など、人事雇用環境は大転換期を迎え、企業内における社会保険労務士の役割は増大し又期待されております。

ついては、この期待に応えるため、会の諸事業への積極参加をお願いすると共に、一層の自己研鑽を期待いたします。

《追記》会員相互の情報交換のため皆さんの活動事例や人事処遇制度等に関する各種情報を支部にて紹介いたしたく、お寄せ願います。

(E-mail: asaka-personnel@sanmic.co.jp)

新入会員を紹介します

入会年月日	氏名	所属	種別	入会年月日	氏名	所属	種別
H10. 1. 1	小畑真由美	麹 町	勤務	"	藤田 宏明	"	"
"	瀬戸 正則	"	"	"	久保田美砂	神 田	"
"	吉場 峰明	"	"	"	斉藤 清憲	京 橋	"
"	小阪 弘之	神 田	"	"	真嶋さやか	日本橋	"
"	小林 太一	京 橋	"	"	田中 輝一	京 橋	"
"	廣木 克己	"	"	H10. 4. 1	田中 典子	麹 町	開業
"	首藤 智	"	"	"	布川久仁子	"	"
H10. 2. 1	中杉 保雄	麹 町	"	"	青山 知代	"	勤務
"	小澤 薫	神 田	開業	"	家坂 聡	神 田	開業
"	田中 健夫	日本橋	勤務	"	仲宗根信成	"	"
"	市川 肇	京 橋	"	"	荒井 順行	"	勤務
H10. 3. 1	新井 誠治	麹 町	開業	"	大和田 明	"	"
"	杉森 美樹	"	"	"	小西 謹吾	日本橋	"
"	鳥居 大二	"	勤務				

褒章のお知らせ



平成10年春の褒章に際し、当支部政連顧問の東京都議会議員内田茂先生が長年都政に尽力されたことにより藍綬褒章を受章されました。心からお祝い申し上げます。

社会保険労務士法

が一部改正されました。

社会保険労務士法第二条第一項第一号に規定されている社会保険労務士が作成できる書類（行政機関等に提出する申請書、届出書、報告書）に審査請求書、異議申立書、再審査請求書が加わり、また、併せて同項第一号の三に審査請求、異議申立て、再審査請求が加わりました。

同好会だより

日帰りハイキング を開催しました

(スキー同好会)



スキー同好会は毎年春に日帰りハイキング、秋に1、2泊のハイキングを行っています。我スキー同好会にはスキーをしない、という会員が多数いらっしゃいますのでその方々にも参加していただけたらと考えて始めました。

ですから行く所もあまり体力のない人でも楽しめる所を選んでいきます。今回の東海自然歩道も富士山と山中湖を見ながらの尾根歩きという目的にピッタリの企画でした。

当日は幸いお天気に恵まれました。でも富士山は目的地に行くバスの窓からは見えただですが歩く頃にはもう姿を隠していました。でも久しぶりの大自然のなか、新緑に包まれ「疲れた、苦しい」と言いながらも健康的な汗と自然の豊かさを満喫し、慣例のインスタントラーメン、味噌汁、コーヒー付の昼食を楽しみ、今回はビールまで付いて十二分に楽しみ全員無事に帰ってきました。(N.A)

春季ゴルフコンペ終了

(ゴルフ同好会)



当支部ゴルフ同好会の近況をご報告いたします。

去る、3月24日(火)本年度春季コンペを千葉県のパリビレッジゴルフクラブで開催いたしました。日程の関係上9名の参加者での実施となり、少々残念でありましたが、当日は絶好のゴルフ日和となり楽しい一日を過ごすことができました。

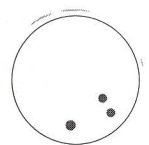
ゴルフ初心者の方が、幹事ということで不手際が多く、会員の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、秋季コンペに向け、早めに準備をして、多くの方が参加できるよう工夫してまいりたいと思いますので、ご助力よろしくお願ひいたします。

なお、先の春季コンペの主な成績をお知らせいたします。

優 勝	高根 祐司
準優勝	半沢 公一
第3位	西村 治彦

ゴルフ同好会 幹事 橋本 敬司

ボウリング大会 結果報告



平成10年3月17日(火)
銀座松竹ボーリング場において、32名の参加者のもと、支部ボウリング大会を開催しました。結果は以下のとおりです。(K.W)

優 勝	段下 正志 (326ピン)
2 位	藤井 絢子 (313ピン)
3 位	高根 祐司 (302ピン)

4月の完全失業率4.1%（季節調整値）

総務庁が去る5月29日に発表した労働力調査によると、完全失業者数は290万人となり、前年同月と比較して59万人の増加となった。これは比較可能な昭和28年以降では最多となっている。離職理由別に前年同

	実数(万人)	前年同月増減(万人)	
		4月	3月
〔完全失業者〕			
総 数	290	59	43
非自発的な離職者	91	41	19
自発的な離職者	98	2	15
学卒未就職者	23	6	7
その他の者	66	7	2

月と比べると、非自発的な離職による者を始め、すべてが増加している。季節調整値でみた完全失業率は4.1%（有効求人倍率0.55倍）で、前月に比べ0.2ポイント上昇し、昭和28年以降で最高となっている。

	実数（％）	対前月増減（ポイント）	
		4月	3月
〔完全失業率 （季節調整値）〕			
男女計	4.1	0.2	0.3
男	4.2	0.3	0.2
女	4.0	0.2	0.4

（「働きづらい」と思っている女性は2人に1人）

——平成9年度国民選好度調査——

女性の2人に1人が「働きやすいとは思えない」と考えている、また、仕事をやめた主な理由は結婚・出産・育児であることが、経済企画庁の平成9年度の国民選好度調査でわかった。

調査は20歳以上59歳以下の男女5,000人を対象に「女性のライフスタイルをめぐる国民意識」をテーマに実施された。

調査によると、女性は働きやすい状況にあると思うかとの質問には、男性は「(女性は)働きやすい」と答える割合が多く、20歳代55.3%、30歳代59.9%、40歳代62.3%、50歳代71.9%と半数を超えており、年齢が高くなるにつれてその割合は高まる。

一方、女性では50歳代で、58.9%が「働きやすい

としているが、他の世代では20歳代41.3%、30歳代31.7%、40歳代44.9%と半数を割っている。とくに20歳代の専業主婦は「女性は働きやすい」とする割合が高く(78.0%)、その理由として「保育施設が不十分である」(16.3%)と回答したものが他の年代よりも高かった。

さらに、「昨今の出生率低下の原因」について尋ねてみると、「子育ての費用の負担が大きいから」(56.6%)が最も多く、次いで「育児施設、制度が充分でないから」(45.7%)を挙げている。特に、女性では「育児施設、制度が充分でない」(51.8%)が「子育ての費用」(56.9%)と同程度だった。

また、専業主婦に仕事をやめた理由を尋ねたところ、「結婚」が40.7%、「家事・育児への専念」が34.1%、「家事・育児との両立が困難」が12.2%と、結婚・出産・育児等に関連する理由が多くなっている。彼女たちに今後職業を持つ意向があるかどうかを尋ねてみると、再び働きたい人は66.2%もいることがわかった。

全額給与支払い型社員制度

松下電器では98年度の新入社員を対象に始めることにした「退職金の前払い制度」が、予想以上に好評なため、在籍社員にも適用することになり、「全額給与支払い型社員制度」として発足する。「Aコース」と「Bコース」の二つがあり、誰でも選択できるのは退職金のみを給与として給付する「Bコース」。これ

に対し退職金だけでなく福利厚生費まで分割して給付する「Aコース」は、一定の専門能力を持つ社員だけが対象とされている。金額は、Bコースで年に8～66万円の手当て、Aコースは年に19～88万円の手当てになるという。退職金は制度化が進むにつれて「後払い賃金」との理解が広まり、どうせなら給与に上積みし、マイホーム取得・教育資金・私的年金の積立てなど、各人の生涯設計の資金に利用可能としてほしいという希望も出されるに至った。そうした時代的要望を先取りする新制度で、他社にも波及するかどうか。

憲政記念館を見学して

副支部会長／恩田 和明

東京都社会保険労務士政治連盟は、去る3月9日永田町にある憲政記念館の見学会を実施した。当支部会からも参加要請に応じて7名の方々が参加された。

当日は同館調査員金子久男氏から、日本の憲政史についてのご講演をいただいた後、館内をご案内していただいた。この中には明治時代の街頭を再現した人形が展示されており、大変興味深いものがあった。明治憲法のもとでは、一定の限界があったものの政党政治が活発に展開していたことが分かる。又伊藤博文にしろ、大隈重信にしろ当時活躍した

政治家たちは皆若い。若さと熱気が政治を動かしていたのだ。

ひるがえって現在の日本はというと老人が政治を支配しており、官僚も腐敗の極みである。

この時期はあたかも社労士法改正案が閣議決定されていた頃である。政治の重要さを今更のように強く感じた次第である。

会議が終わって、この会館の庭にでると早咲きの桜が満開となっていた。私たちの社労士法改正への要望が、4月には本格的な満開となることを念願し、記念館を後にした。



7月号の発行となりました。平成10年のはじめに心新たにスタートしたのが、昨日のように思いかえされ、まさに「光陰矢のごとし」です。

景気はさっぱりよくなる気配がありません。ごたごたしているだけで、これからの未来像もはっきりしない世の中です。それでも季節の流れは周囲にふりまわされることもなく冬が去り、春が来て夏を迎え悠々と永遠にくりかえされています。私たち

も自然にかえり、基本にかえり、仕事を見直す姿勢をもちながら仕事を続けていくことが大切なことだと思います。

支部報も皆さんのニーズにこたえて、質の高いものをいち早くお届けし、少しでもお役に立ちたいとのぞんでいます。

何でもご意見をお寄せください。

(Y.S)

■会員異動状況

項目 地区	平成10年1月31日現在			異動(増減)			平成10年4月30日現在		
	開業	勤務	計	開業	勤務	計	開業	勤務	計
麴 町	57	259	316	3	-3	0	60	256	316
神 田	75	179	254	1	-4	-3	76	175	251
日本橋	35	141	176	1	-2	-1	36	139	175
京 橋	57	149	201	-1	-2	-3	56	147	203
合 計	224	728	952	4	-11	-7	228	717	945